



本河  
 長  
 第  
 紀  
 汗  
 全

津田文庫  
 文庫 1  
 1844



早稲田大学  
図書館蔵書

平又抄板  
赤羽の芽書と

錦旗の成位  
の文庫

高橋

高橋

訓てしと思ひ甲一と名の母と信し帝の立る  
志とこれ人かちきしほむ其れて帝ハ西せ  
ヤケ振リ又馬のこれひけしそと信くま  
まはすよらましけらほりおほくそや  
やまうとこれ色の所は人さらて也けふ  
流名よめてせせりお國のそと  
んて平あきおほくそと信くそと  
於をくそらりある人そと信くそと

010190617675

よきう一筋をーのりく。を始ると進まそー  
海と又る縄。は海に洋流を流  
そりあふ。略々ちやうどけふれ安房と福の  
山と通へん。一と一と。山と山と  
五物に帆をうける。波の勢はれん。ちやうどけふれ安房の山  
孫陽。うらやまの。うらやまの。うらやまの。うらやまの。うらやまの。  
面影と。うらやまの。うらやまの。うらやまの。うらやまの。うらやまの。  
宿未なる。親を。おと。うらやまの。うらやまの。うらやまの。うらやまの。  
うらやまの。うらやまの。うらやまの。うらやまの。うらやまの。うらやまの。  
うらやまの。うらやまの。うらやまの。うらやまの。うらやまの。うらやまの。

1844

帰を。西に。社。又。あ。は。海。の。うらやまの。うらやまの。うらやまの。うらやまの。  
相。漢。流。と。うらやまの。うらやまの。うらやまの。うらやまの。うらやまの。  
あ。り。うらやまの。うらやまの。うらやまの。うらやまの。うらやまの。  
うらやまの。うらやまの。うらやまの。うらやまの。うらやまの。うらやまの。  
か。り。うらやまの。うらやまの。うらやまの。うらやまの。うらやまの。うらやまの。  
うらやまの。うらやまの。うらやまの。うらやまの。うらやまの。うらやまの。  
うらやまの。うらやまの。うらやまの。うらやまの。うらやまの。うらやまの。  
うらやまの。うらやまの。うらやまの。うらやまの。うらやまの。うらやまの。  
うらやまの。うらやまの。うらやまの。うらやまの。うらやまの。うらやまの。  
うらやまの。うらやまの。うらやまの。うらやまの。うらやまの。うらやまの。

平の坂と坂とやうな山もあつた。山はけりなつた。

山はけりなつた。山はけりなつた。山はけりなつた。

山はけりなつた。山はけりなつた。山はけりなつた。

山はけりなつた。山はけりなつた。山はけりなつた。

山はけりなつた。山はけりなつた。山はけりなつた。

山はけりなつた。山はけりなつた。山はけりなつた。

山はけりなつた。山はけりなつた。山はけりなつた。

山はけりなつた。山はけりなつた。山はけりなつた。

山はけりなつた。山はけりなつた。山はけりなつた。

山はけりなつた。山はけりなつた。山はけりなつた。

山はけりなつた。山はけりなつた。山はけりなつた。

秋のふたはくせうとけり時之はびらぬてと

とゆきの付はま披あひたれに逆鱗ありとや  
西の海しられし時よきまゝに前縁はらん  
秋の里とふれはれしとてんあらんあうな  
ゆみちとせうせうとく作らぬ

秋のふたはくせうとけり時之はびらぬてと  
とくしとていせう入おのふくとねはと小田原の家と  
とゆきちりれはれの音あつたにまらぬ  
友わら算るうらたはれしとてんあらんあうな  
廿九日

八つ入もふおとらうとれてせうとられはかこく  
とらみの山はたえよはれと松  
坂といふとていふはれとていふはれとていふはれと  
多くとていふはれとていふはれとていふはれと  
いふはれとていふはれとていふはれとていふはれと  
せうとていふはれとていふはれとていふはれと

とゆきちりれはれの音あつたにまらぬ  
友わら算るうらたはれしとてんあらんあうな  
とゆきちりれはれの音あつたにまらぬ  
友わら算るうらたはれしとてんあらんあうな  
とゆきちりれはれの音あつたにまらぬ  
友わら算るうらたはれしとてんあらんあうな

湯の地をいふと里の地すゝまらぬ

一さういふとさういふと

ふりまゝに旅路の中はたゞも家の山と云ふと  
い山中に村ありけしんはさかす海をこして  
取らぬと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふと  
りまゝに云ふと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふと

いふと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふと  
なると云ふと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふと  
八湖のみまゝに世俗さのけさると云ふと云ふと云ふと

此の地を地産生之つに川ありて右に  
兼ねに控取、七八十あるもの、物しり、八新  
云の津之りて、家之は、持取て改り、  
作の本名を、年改之を、一者ありて  
りふと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふと  
身をおいて、時と云ふと云ふと云ふと云ふと云ふと  
云の者、の、まゝ、と云ふと云ふと云ふと云ふと云ふと  
り、ハ、相、換、と、伊、豆、の、控、取、り、ま、ま、甲、石、山、中  
兼、東、之、と、云、極、東、と、云、建、物、と、云、と、云、と、云、と、云、  
明、林、の、門、と、云、と、云、と、云、と、云、と、云、と、云、と、云、

ちあんとくれあ貴樹を伊豆のあと路河いから大

掛柳うりきらふの塔より依けたるきとて海津の御

悔り

りから道をはれ秋涼くゆぬ京の常とと柏系と云

建物のころあきまき二里あまの事くおのめをたかの

あち富たれ終た晴りて山はるうなまのあをまを

きくあつうくらあまかふる面乳能は流し流る

画くくこ澤を流り行下る

不二の石のそれまはとえつり臨たゆなうき流り京

うき流りてく一系のをち柏系との岡の右を極東

りくくれい公もそふあうりく系をこりか智とあり

てあきんづりうまゆくくくくぬのち乳入雲きふく

祿はささくぬを京の歌とてまはあまらうえち物

とよふい夢一富士の白雲をまぬくは貴とてや

り八百七川よりく水とあやわわいあまあま

流るりくくくぬのうらゆき

流とくち名小あふりれ川波よりまをけは後次和とこ

岩倒しとて建物ととせあん坂といふ山をいこり

着系の名くきくく由はのちまてあ士の家広積

こて塔く塔とれ塔まらうあすこ海長りいしぬ





京都あれ〜川なと名ふ〜と原の着よ〜  
若〜は房中へ若〜と

八月初日

これ〜の夕〜 君用ありて候し〜とく〜  
洲〜のち〜若〜とあ〜八所の方〜  
〜は河原川〜日記〜や〜  
〜は安〜向の岸〜  
山を〜川〜く回〜  
〜川〜

人々住〜山本〜の女の方〜

志〜川〜の鞠子のあ〜  
〜はあ〜  
〜はあ〜

西〜川〜のあ〜

り〜は山〜

秋乃を〜  
〜は山〜  
〜は山〜  
〜は山〜

なまうけとあへる白くくそをかりて是部のを  
最枝の秋冷田の歌もこそ大井川よらまら流河と  
をねの境りはしらの早歌をそなへたれどもき  
ま所のこを流らばそふちりもみえし大河原と  
十河をいりんきほをなれ方にを隔みたる中  
流一物ありのこまとりされいふあやの若くがらん  
坂つすこのかりまじ山とまきこりて又くま  
はるの流と菊川とをみえありいそり流るる小里あ  
り又坂とまきこり十河の夜入津山とせし  
こりれまははあしりつひふんを

夕暮れ秋の夜も余あしりいふかこもさうさ  
坂とまきこり日坂の歌もあつりまきけり  
いそくとまきこりまきこりまきこりまきこり  
打ててひこまきこりまきこりまきこり  
惜しあつて梅のを歌よこけいふのまきこり  
昔本と産物とてあつてまきこり今もあつて  
臨秋のこまきこり織るこまきけりのまきこり  
あつてまきこりまきこりまきこりまきこり  
まきこりまきこりまきこりまきこり

110

橋を立けるはありとありやれはせらるんふとそんめり  
 糸ふもえんこまてり川せりぬと名ありんはれも  
 かあふたつたつとふふとりなは給たてとて  
 産あふんら肩ありふふとこ子孫ありふ補出  
 こころも昔月夜ありあやと地あり出るいりな  
 しりてり川は浅井の深くさるれぬとて板と  
 子平山とさるれん所の里名ふとていりりぬぬ  
 けさるて神を宿せとりぬるふふりて申所ありや  
 古くははくたふとまより二里はりりぬぬ地回の  
 里こころじりて宿ありて名ふと平の字ありぬぬ

中や出あり田記ありては川の名こころ里とぬれんが  
 條に長ゆる道の記ふ天れ中川とてりるふとぬぬ  
 くしぬまはいりてとれりさぬ

いそくまはるありてけいりはやてきり天の記  
 船渡しを越く又二里とてりては淡路の歌へて  
船渡しの記  
船渡しの記 舟に今と城渡り町あり  
 舟やふれぬの記ありてりては淡路の歌へて  
 是よりとてりてり今切の河に渡りてりてり

いらぬ海ゆよめりてり中ゆいりてり

海邊入りちりぬ松村之海見由鴨鴨のまわりなる  
後舟うかりこにうらむんらりたあはれ船橋より  
あまのほ名うあ遠に灘しつづ入かこら目水  
うらむこは島山しれし海ありま時におりあはれ島  
りあは降りたりてこも志ありしお田村系海知り見  
まはくく入おし井まはりし仲は白波とある船  
なるへ一里余の波海はけとく新水は岸より  
今方の高八半中より別しおあはれはりし  
島よあはれしは美とこしし海邊雲新のれは法  
と海はく打し志者しし島内のあるあり

あはくをそよして海のうらむりあはれしは  
貴人の人おはれしはとすし海はけはらあはれし  
かり祿しよこししあはれは美とこしし海邊雲新のれは法

三日

東にいましむるこはぬら島とまはれはれしは  
しと白波はれしは湖見坂とのり山にけしはの若し  
あも中ゆりしは山とあはれ坂の山のまにを  
何ちりしはのこはれしは山にけしはの若し  
是しとくまはれしは山にけしはの若し  
なむと名ふしは山にけしはの若し  
まぬ今れはすはれとすはれとすはれとすはれと

歳より遠之別の境へまゝなれば平山の新井

より後さきとつらんうらとさき津原の地をまゝ

小大石のまゝらあやうきまゝの地をまゝ

津原のまゝらあやうきまゝの地をまゝ

まゝのまゝらあやうきまゝの地をまゝ

あに暇なれどもいふにわづらひまゝの地をまゝ

まゝのまゝらあやうきまゝの地をまゝ

二川田とさき津原の地をまゝ

いくさの境のまゝらあやうきまゝの地をまゝ

まゝのまゝらあやうきまゝの地をまゝ

まゝのまゝらあやうきまゝの地をまゝ

まゝのまゝらあやうきまゝの地をまゝ

まゝのまゝらあやうきまゝの地をまゝ

まゝのまゝらあやうきまゝの地をまゝ

まゝのまゝらあやうきまゝの地をまゝ

まゝのまゝらあやうきまゝの地をまゝ

まゝのまゝらあやうきまゝの地をまゝ

まゝのまゝらあやうきまゝの地をまゝ

まゝのまゝらあやうきまゝの地をまゝ

まゝのまゝらあやうきまゝの地をまゝ

まゝのまゝらあやうきまゝの地をまゝ

まゝのまゝらあやうきまゝの地をまゝ

まゝのまゝらあやうきまゝの地をまゝ

まゝのまゝらあやうきまゝの地をまゝ

まゝのまゝらあやうきまゝの地をまゝ

まゝのまゝらあやうきまゝの地をまゝ

往く三重斗り八幡河の如くはる小松川

上河と流法のことあり

日投れてたつとて海海はさるり末のちりまゝなり  
まゝなり又アと降りてまの若く極大回る林とを  
あつとてまゝ名なく流連小松ち八波千と  
流の上と少みくして大松すをまゝ神安う  
んゆれしゆりるちやく結ひまゝなり  
小松り流連て流古のくことりりれ十余河川の  
方よりわかれ大松りる流うりて流て流ゆれ  
一里をりると事れくこと思ふらふ行帆河

をるくくは流法のことあり

流かー河には中流みなり  
は河上とまことたさるり先八幡河のまに流中上階  
成て流とて流むさんてまれんまゝ葉名もを  
うんく流うけてま名のま流小流く流らわれ  
若はやくちり

入日

りまの道をまねはくとふくをまて流ゆるまの河  
まゝなり流のあけりるま流物まゝなり  
まゝなり流のあけりるま流物まゝなり







たりの村へはるふつけてふたありくわい  
又ふたふたあきしういふあふりく  
六ら  
ゆきざれおるはゆきとちの尾川とりはり一  
とらとあきおぬや中栗村あきと連向と  
と水ののたととてい田川とりはるはり  
とらとあきおぬや中栗村あきと連向と  
と水ののたととてい田川とりはるはり  
とらとあきおぬや中栗村あきと連向と  
と水ののたととてい田川とりはるはり

らこの国とさ  
部のお法とさ  
田川水の  
いさる  
とらとあき  
と水ののた  
とらとあき  
と水ののた

く  
とらとあき  
と水ののた  
とらとあき  
と水ののた

次一ふたきくおれく母の梅の他方立物にはくま  
皆田乃移とくまにま打ひるま湖との凡系  
くま

こけや名ふあふ八川の無とをを小みさせまれも  
石山に移しりおをりん夫とせんたふさく粟津  
那ははゆりくこそのあつた三井と角藤は方は良入  
う根田の浦はくま小倉とちてこにまふあり  
控しもある名ふ入向よりは敷山ハハの炭志  
松とりくく粟津と京ちくの城下とと打おの  
賀乃浦長等山人くつら子成京小く故とこれ

おハられくくくくくくくくくくくくくくくく  
之ひかみかたりんれハ鏡山てらりふん中

湖

湖大くくくくくくくくくくくくくくくく  
湖の原くくくくくくくくくくくくくくくく

七日  
くくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

くくくくくくくくくくくくくくくくくくくく  
打残くかくゆけくくくくくくくくくくく  
まくくくくくくくくくくくくくくくくく



之里はりり事ぬ船人のとらうくさるふそんく  
まはははれ小波あけてまよみゆふたらんし  
とささるる船さあがりしりかひらことみちあ  
ふおろくさひいりりあはさきくしゆふ  
いりり小ちりりいりりいりりいりりいりり  
れとちりりいりりいりりいりりいりりいりり  
ちりりいりりいりりいりりいりりいりりいりり  
ちりりいりりいりりいりりいりりいりりいりり  
まはははれ小波あけてまよみゆふたらんし

この書は松竹の巻に記す所は  
いりりいりりいりりいりりいりりいりりいりり

安永六年八月

長兼記

此紀行は若人むしんあつてあつたれ  
いりりいりりいりりいりりいりりいりりいりり  
折筆して志しりりいりりいりりいりりいりり  
年いりりいりりいりりいりりいりりいりりいりり

かきりくこからいれらるるのちうにち  
ほくそめあまた又送りやうふりあれは  
ちんこにのりしうにちうの我年を  
又ふれりしうにちうにちうにちうにちう  
あつたにちうにちうにちうにちうにちう  
候きにちうにちうにちうにちうにちう  
この歴はせんしうにちうにちうにちう  
えんしうにちうにちうにちうにちうにちう

あつたにちうにちうにちうにちうにちう

あつたにちうにちうにちうにちうにちう

T

T

T

T

*Faint handwritten text, possibly bleed-through from the reverse side.*

